

千葉労働動



11:30
-12:1
スト

不当な対応に戦術拡大!

一〇万人首切り攻撃に

反撃の第一歩築く!

全組合員の総力 決起でスト貫徹!

全組合員の総決起のもと断固打ち抜かれた。JRにおいて開始されたJR版リストラ一〇万人首切り攻撃への反撃の狼煙がここに吹き上がったのである。

千葉支社は、JR総連をはじめとした他労組のスト破りを全力投入。だが、今次ストは、分割・民営化強行以降、九〇年三月ストに次ぐ三三四本の運休、八万人の足に影響、当局に痛打を与えたのである。

だが、このストは、反撃の第一歩だ！
全組合員は、一〇万人首切り攻撃を断じて許すことなく、全国鉄労働者とともに決起することを訴え、壮大な反撃を築くために、全力を傾けよう！

スト回避の努力 さえ怠る当局!

一月二十九日、今次スト回避にむけた最終団交が開催された。組合は、(1)地域切り捨てダイヤの撤回、(2)強制配転者の原職復帰に向けた今後の展望を明らかにせよ等四点に絞り交渉に臨んだ。

しかし、われわれと地域住民の切実な要求に対し、当局は(1)について「今後の列車設定計画についても、お客さまのご利用状況等を勘案しながら策定していく(今後も備け優先で地域切り捨てのダイヤとする)。(2)について「任用の基準に基づき取り扱っている。(今後の展望すら示さない)」との回答に終始し、団交は対立の組合として、「①今後の地方交通線の在り方を明確に示すこと。②強制配転者の復帰について今後の展望を明らかにすること。」と二点に要求を絞りこんで回答を迫った。

しかし、当局は、二点とも前記同様の回答に終始するばかりか「(地方交通線の廃止にあたって)地方自治体と協議してやるという考えは持っていない。」と開き直り、最終的なトップ交渉の開催要求をも拒否、さらにストの「立ち上がり」についても、従来のとおり運転法規と安全に関わる問題を無視した取り扱いを一方的に強制した。また、各スト拠点現場においては、ダイヤ改移行日にも関わらず大量のスト対策要員を配置し、組合員への弾圧や組合事務所への通行妨害をするなどのスト妨害を行ったのである。

われわれは、この許すまじき事

態に対し、三十日夜、十二月一日スト対象者につき十二時復帰のスト戦術を終業時まで拡大することを当局に通知し、ストを貫徹していったのである。

一切の問題は、 強制配転者の原職復帰!

千葉支社は、十二月二日付朝日新聞千葉版に「限られた乗務員、列車を有効に使うため、利用の少ない時間帯の列車を減らし、内房、外房各線の込み合う午後九時、十時台を増やした。長い目で見れば、利用者によい結果をもたらす」との談話を載せた。

十二・一ダイヤ改での乗務キロの減は、▲四三二・六キロであり、わずかに二・三名の強制配転者を復帰させれば、地域切り捨てダイヤは解消されるのである。

「限られた乗務員」と言うが、強制配転された仲間「余剰人員」なるレッテルを貼り、「四〇〇名の余剰人員がいる」と主張しているのは誰であろう当局自身であり、ペテンもいところだ。

しかし、当局は、JR総連と結託し不当な労務政策を全て優先し、組合要求を無視し続けている。そして、そうした不当労働行為に力を注ぎ込んでばかりいる結果が、十二・一ダイヤ改において規定違反の乗務交番を提案する等々という「お粗末な」醜態なのだ。

われわれは、こうした当局を断じて許すことはできない。

すでに提案されている「構内業務の全面的外注下」、十二月十三日提案される「年度末合理化」を断じて許すことなく闘おう！

貨物組合員への賃金格差を断じて許さず闘おう！

12・5 小選挙区制粉砕! 細川内閣打倒!

解雇撤回! 清算事業団闘争勝利 全国労働者集会へ!!

とき 十二月五日(日) 一三時
指定列車
千葉駅③番
ところ 千駄ヶ谷(区民館)
(原宿駅より徒歩一分) 十一時二五分発(決)